

内閣府の公表結果について(H24.8.29)

資料1

◇市町別最大震度(震度分布のうち最大のもの)

市町名	24.8.29公表※1	24.3.31公表	中防3連動 【H15】	県想定(南海) 【H17】
	南海トラフ 最大クラス	南海トラフ 最大クラス		
高松市	6強	6強	6弱	6強
丸亀市	6強	6強	5強	6弱
坂出市	6強	6強	5強	6弱
善通寺市	6強	6強	5強	6弱
観音寺市	7	7	5強	6弱
さぬき市	6強	6強	6弱	6弱
東かがわ市	7	7	5強	6強
三豊市	7	7	6弱	6弱
土庄町	6強	6強	5強	6弱
小豆島町	6強	6強	5強	6弱
三木町	6強	6強	5強	6強
直島町	6弱	6弱	5弱	6弱
宇多津町	6強	6強	5強	6弱
綾川町	6弱	6弱	5強	6弱
琴平町	6弱	6弱	5強	6弱
多度津町	6強	6強	5強	6弱
まんのう町	6強	6強	6弱	6弱

※1 24.3.31公表の数値と変更はない

【参考】主な県庁所在地の最大震度

岡山市北区	6強	6強	5強
徳島市	7	7	6弱
松山市	6強	6強	6弱
高知市	7	7	6強

◇市町別最高津波高(満潮位・地殻変動考慮)

市町名 ※1	24.8.29公表 ※2		24.3.31公表	中防3連動 【H15】※4 (m)
	南海トラフ 最大津波高 (m)	南海トラフ 平均津波高※3 (m)	南海トラフ 最大クラス (m)	
高松市	4	3	4.5	3.5
丸亀市	3	3	3.2	3.1
坂出市	4	3	3.3	3.7
観音寺市	4	4	3.5	3.0
さぬき市	5	3	4.6	3.6
東かがわ市	3	3	3.9	2.9
三豊市	4	4	3.8	3.3
土庄町	3	3	3.7	3.1
小豆島町	4	3	4.0	3.4
直島町	3	3	3.3	3.0
宇多津町	3	3	3.1	2.9
多度津町	4	3	3.6	3.2

港湾名	24.8.29		金田シミュレーション 【H23】 (m)
	津波高 (m)	県想定2連動 【H17】 (m)	
高松港	2.8	2.4	2.9
丸亀港	3.0	2.6	
坂出港	3.2	2.7	
観音寺港	3.2	2.9	
志度港	3.8	3.1	
引田港	2.3	2.0	
須田	3.5	3.1	
王子前漁港	2.9	2.5	
内海港	3.4	2.7	
宮浦港	2.4	2.2	
宇多津	2.8	2.5	
多度津港	3.2	2.7	

【参考】主な県庁所在地等の数値

岡山市南区	3	2	3.3	2.9
徳島市	7	4	6.7	3.9
松山市	4	3	3.5	2.6
高知市	16	9	14.7	9.7

※1 港湾名等は明らかにされていない。

※2 メートル以下第2位を四捨五入した結果を切り上げ、メートル単位としている。

※3 平均津波高とは市町全域の平均値である。

※4 3/31の公表時に、初めて、提供されたものである。

◇市町別浸水面積(最大ケース)(ケース④)

24.8.29公表		
市町名	浸水面積(ha) ケース4 ※1	県想定2連動【H17】 (ha) ※2
高松市	690	1,864
丸亀市	190	324
坂出市	810	1,116
観音寺市	200	289
さぬき市	290	380
東かがわ市	90	83
三豊市	220	513
土庄町	60	155
小豆島町	110	159
直島町	90	35
宇多津町	10ha未満	29
多度津町	40	252
計	2,790	5,199

※1 浸水深1cm以上

※2 県想定2連動【H17】は、堤防・護岸なしの場合の浸水面積である。

◇県別浸水面積(最大ケース)(四国)

	浸水面積(ha) ※1	最大ケース
香川県	2,790	ケース④
徳島県	11,750	ケース③
高知県	15,780	ケース④
愛媛県	4,050	ケース⑪

※1 浸水深1cm以上

◇死者数(四国地方が大きく被災すると考えられるケース)

	最小被害 ※1	最大被害 ※2	県想定(南海) 【H17】
全体	約32,000人	約226,000人	—
香川県	約90人	約3,500人	188人
ケース	地震動(基本ケース) 津波(ケース④)	地震動(陸側ケース) 津波(ケース④)	南海地震
シーン	夏・昼	冬・深夜	冬・夕
風速	風速8m/s又は平均風速	風速8m/s	—
避難開始時期(津波)	早期避難率高い	早期避難率低い	—

※1 四国地方が大きく被災すると考えられる24ケースのうち、最も被害が小さくなるケース

※2 四国地方が大きく被災すると考えられる24ケースのうち、最も被害が大きくなるケース

◇四国地方が大きく被災するケースの最大死者数内訳(香川県)の比較

	地震動 ケース	シーン	風速	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機 の転倒・屋外落下物	合計 ※
ケース④	陸側	冬・深夜	8m/s	約2,300人	約1,000人	約20人	約70人	—	約3,500人
ケース⑤	陸側	冬・深夜	8m/s	約2,300人	約1,100人	約20人	約70人	—	約3,500人

※ 内閣府公表の合計は、ケース④及びケース⑤ともに約3,500人となっている。

◇負傷者数(四国地方が大きく被災すると考えられるケース)

	最小被害 ※1	最大被害 ※2	県想定(南海) 【H17】
全体	約253,000人	約612,000人	—
香川県	約3,300人	約23,000人	3,324人
ケース	地震動(基本ケース) 津波(ケース④)	地震動(陸側ケース) 津波(ケース④)	南海地震
シーン	夏・昼	冬・深夜	冬・夕
風速	平均風速	風速8m/s	—
避難開始時期(津波)	早期避難率高い	早期避難率低い	—

※1 四国地方が大きく被災すると考えられる24ケースのうち、最も被害が小さくなるケース

※2 四国地方が大きく被災すると考えられる24ケースのうち、最も被害が大きくなるケース

◇四国地方が大きく被災するケースの最大負傷者数内訳(香川県)の比較

	地震動 ケース	シーン	風速	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機 の転倒・屋外落下物	合計 ※
ケース④	陸側	冬・深夜	8m/s	約23,000人	約200人	約30人	約60人	約10人	約23,000人
ケース⑤	陸側	冬・深夜	8m/s	約23,000人	約300人	約30人	約60人	約10人	約23,000人

※ 内閣府公表の合計は、ケース④及びケース⑤ともに約23,000人となっている。

◇建物全壊棟数(四国地方が大きく被災すると考えられるケース)

	最小被害 ※1	最大被害 ※2	県想定(南海) 【H17】
全体	約940,000棟	2,364,000棟	—
香川県	約8,100棟	約55,000棟	4,596棟
ケース	地震動(基本ケース) 津波(ケース④)	地震動(陸側ケース) 津波(ケース④)	南海地震
シーン	冬・深夜	冬・夕	冬・夕
風速	平均風速	風速8m/s	—

※1 四国地方が大きく被災すると考えられる12ケースのうち、最も被害が小さくなるケース

※2 四国地方が大きく被災すると考えられる12ケースのうち、最も被害が大きくなるケース

◇四国地方が大きく被災するケースの最大建物全壊棟数内訳(香川県)の比較

	地震動 ケース	シーン	風速	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機 の転倒・屋外落下物	合計 ※
ケース④	陸側	冬・夕	8m/s	約37,000棟	約800棟	約100棟	約12,000棟	—	約55,000棟
ケース⑤	陸側	冬・夕	8m/s	約37,000棟	約900棟	約100棟	約12,000棟	—	約55,000棟

※ 内閣府公表の合計は、ケース④及びケース⑤ともに約55,000棟となっている。

最大の想定死者数のケースにおける被害軽減効果

内閣府公表ケースのうち、死者数が最大(約323,000人)となるケースの場合
 【地震動:陸側、津波:ケース①、冬深夜、風速8m、早期避難率低】

	全国(香川県)		全国(香川県)
建物被害	約82,000人(約2,300人)	被害 軽減 後	約15,000人(約 200 人)
津波	約230,000人(約 200 人)		約46,000人(約 20 人)
急傾斜崩壊	約600人(約 20 人)		0人(0 人)
火災	約10,000人(約 80 人)		約300人(0 人)
ブロック塀等	約30人(0 人)		0人(0 人)
合計	約323,000人(約2,600人)		約61,000人(約 200 人)

○上記で見込んだ防災対策の内容

【建物被害】 建物の耐震化率100%及び家具等の転倒・落下防止対策実施率100%

【津波】 全員が発災後すぐに避難開始及び既存の津波避難ビルの有効活用

【急傾斜地崩壊】 急傾斜地崩壊危険箇所整備率100%

【火災】 電熱器具等からの出火を防止する感電ブレーカー等の設置の実施率100%
 家庭用消火器等の消火資機材保有率の向上等による初期消火成功率の向上

【ブロック塀等】 ブロック塀・自動販売機の転倒防止及び屋外落下物対策の実施率100%